

12月 表現あそび参観日 ホットニュース

2023年12月6日

晩秋の趣を通り越して一気に冬がやってきましたね。マスクをとった私たち職員の顔に戸惑っていた子どもたちですが、ようやく慣れたと思ったのも束の間、インフルエンザが流行し始めて、またマスクが必要になってきそうです。そんなタイミングでの『表現あそび参観日』ですが、劇の作られ方が面白いというか、難しいというか……。

年少月組の子どもたちは絵本の読み聞かせが大好きです。担任教諭が“そろそろ劇に向けた一步を踏み出したいなあ”と思っていた頃に読んだ『ねこのおいしゃさん』と『おおきなかぶとちいさなかぶ』というお話に、子どもたちがいつになく反応しました。「次の患者さん、どうぞお。」などと、ねこのお医者さんになりきったやりとりをする子もいました。「もっと面白くするには何が要る？」という担任教諭からの問いかけに「カレー」「まくら」「うどん」「ティッシュ」などの小道具を作ろうという返事が。さらに、「ねこのお医者さんに治療してもらった動物たちが、おいしいものを食べて元気にならない」と、〔かぶ〕だけでなく〔さつまいも〕や〔だいこん〕など自分たちが先月収穫した経験をお話に盛り込むアイデアが子どもたちから出てきました。そして、登場人物のねこやぞう、キリンやくまなどの顔を描いてかぶってみると、のりのりでお話の中の会話に入っていました。“よし、この（なりきり遊び）をとっかかりにしてお話遊びにつなげられるかな”と担任教諭は思い始めました。

そんなこんなで、二つの絵本のお話が繋がった少し長い物語ができました。アイデアは出せたけれど、実際に役になりきることはとても恥ずかしいみたいなので、担任教諭がナレーションをしながら進めています。

さあ、当日の子どもたちは、どこまで弾けてくれるでしょうか……？



同じように、年長花組も『押し入れのぼうけん』という絵本から『花組の押し入れの冒険』というお話が創り上げられているようです。子どもたちの話し合いから生まれるアイデアが日に日に膨らみ変化するらしく、担任教諭は劇のシナリオを書き直しては上書き保存する毎日です。毎日上書きしていますから、「お話が完成することはなさそうです。」と複雑な笑顔を見せています。

私が小学校教諭時代、『小学〇年生 劇シナリオ本』の中から自分のクラスに合いそうなものを勝手に見つけて印刷し、「今年はこの劇をするぞう！」と練習開始してました。それを思うと、幼稚園の先生の‘受容の心’って凄いと思います。